

平成21年度 第1回千葉県博物館協議会議事録

日 時 平成21年9月16日(水) 14:00~16:00

場 所 千葉県立中央博物館会議室

出席者

(委員)

明石委員《議長》 秋田委員 鶯澤委員 大澤委員 大森委員 片山委員
栗原委員 篠原委員 西村委員 水島委員 茂木委員 吉野委員

(博物館・文化財課)

大熊美術館長 佐久間中央博物館長 府川現代産業科学館長
郷田関宿城博物館長 村山房総のむら館長 上野文化財課長

日 程

開 会

博物館あいさつ

文化財課あいさつ

議 事

- (1) 今年度の事業概要について
- (2) 地域振興への取組みについて
- (3) その他

その他

閉 会

<博物館あいさつ>

県立博物館・美術館の状況。市町村に移譲された上総博物館、安房博物館は地域に根差した新たな博物館として新たなスタートを切った。平成20年3月に答申いただいた「博物館の地域振興のあり方」に基づき各館で活動を進めている。県民のニーズに応え文化の向上に資するべく努めているところである。

<文化財課あいさつ>

県の不正経理問題についてのお詫び

館山市へ移譲した旧安房博物館の現在の状況

現代産業科学館の移譲協議について、房総のむら第2期指定管理について
文化庁地域芸術文化振興プラン推進事業、教育委員会等の事業計画
新型インフルエンザへの博物館の対応

<文化財課・博物館職員紹介>

<議 事>

(1) 今年度の事業概要について

各博物館長から平成21年度の事業概要について報告

[質疑・意見]

議 長 :

現代産業科学館では、どのようにして平成20年度に前年度比3万人も入館者が増加したのか。

現代産業科学館:

昨年はプラネタリウム上映会でのナレーション等を前年度と変えたこと、広報活動に加え、マスコミに取り上げられたことが入館者増になった要因と認識している。

議 長 :

房総のむらでは「稲穂祭り」が行われているが、県立美術館・博物館全体の「祭り」の構想はないのか。

文化財課長 :

例年、合同企画事業として巡回展を行ってきた。今年は、学校連携に取り組み、学習キットを作成し、一過性ではなく、調査研究、普及事業の中で行っている。

議 長 :

県立美術館・博物館の広報のため、文化庁の資金などを活用し、「県立博物館デー」を設けてアピールしてはどうか。

文化財課長 :

文化庁資金の件は、本年6月末の事業が決まった後で話がきたもので、手が回らなかったのが実情である。今後は、そのようなイベントについて研究してみたい。

議 長 :

6月15日の「県民の日」や「県のキャリア教育」があるが、「博物館の日」を設け、学校を休みにして「博物館に行きましょう」という日を設ける。青年の家等とタイアップし、よい意味の県民運動を起こすなどしてはどうか。

中央博物館 :

県博物館協会において「地域振興委員会」を設け、5月18日の「国際博物館デー」に対応した行事を実施する方向で提案中。また、「文化の日」は全館無料としているが、「博物館の日」も無料とすることも考えられるのではないか。

委 員 :

美術館では、千葉市の花火大会の日は無料開放したか。

美術館：

芝生部分を開放した。

議長：

（国立中央青年の家50周年記念事業を例に）千葉県で最初に設立された県立博物館である上総博物館開館40周年など周年・紀年事業によって県立美術館・博物館全体を活性化できないか。

（2）地域振興への取組みについて

議長：

各館の報告を聞いて、各館とも頑張っていることがよくわかった。

委員：

各館の努力はよくわかったが、「房総のむら」の学校対応事業のボリュームが圧倒的であり、博物館に対する社会的なニーズが表れている。その反面、展示室での展示が不人気なのは、展示更新等の変化がないためなのか。

各館からは、改善すべき点をあげてほしかった。

フィールド系の事業に人気がある。フィールドミュージアム事業、とりわけ「山のフィールドミュージアム」事業がどう機能しているのか？むずかしいことがあるのか？今後はどうするのか？山の分館は実現すべきか？どんな施設を設置し、フィールドミュージアム事業を行うべきか。職員が頑張ることのできたもの、予算の足りない部分はどこか。県教育委員会に対して、そのような事柄を発信していくことで、この協議会の存在意義が上がる。

議長：

山の分館についての懸案は何か。

中央博物館：

「山の分館」というハードの施設はあまり必要ないのではないかという意見もある。「山のフィールドミュージアム」事業は、展開して6年目であり、現在4名の職員が専任しており、地元では大変好評である。君津市教育委員会の要望もあり、君津市に全面的に協力し、教室博物館の実施校が2校増えることとなった。「おばあちゃんの畑」事業は好評であり、現在、久留里でのフェスティバルを準備中である。本事業は、全県下に拡げる必要がある。次回の協議会で報告したい。

議長：

房総全体を自然学校としてみていこうというNPO「千葉自然学校」との連携は可能か。

中央博物館：

山のフィールドミュージアムでは、「千葉自然学校」が「君津亀山少年自然の家」の指定管理者として入っているので、これと連携した実績がある。

議長：

学校連携の懸案、課題は何か。予算、人員、PRなどあったらお願いしたい。

中央博物館：

学校連携の一環としての総合的学習の時間についても見直し（削減）の影響が少なからずでてきている。総合的な学習の時間に頼らない方向性を模索する必要がある。

委員：

多くの人を巻き込み、積極的な対応を取るのには賛成である。

委員：

学校連携も数値目標を立てないと甘くなる。3～5年程度の中期目標が必要であり、そこに「もうひと工夫」が生まれる。

博物館の情報を求める人は多い。博物館の体験メニューを親子で体験させたいが、学校からのペーパーなら親に必ず目を通してもらえる。学校から配布してもらえる仕組みを作るべきであり、そうすることにより、親の参加が増える。

委員：

学校団体のほとんどは義務制であろう。「森の調査隊」「中央博調査隊」は、小学校中・低学年にはよいプログラムであり、学校関係者の間で好評である。理科部会等で広報すべきである。

中央博物館：

「森の調査隊」「中央博調査隊」は現在、フル回転している。来年度以降の展開について検討してみたい。

（利用状況について担当者より報告）

議長：

どうして人気があるのか。人気の秘訣を利用者にヒアリングして、その結果を各館で共有するとよい。

中央博物館：

ただ今のご指摘は、今後の博物館のあり方として検討していきたい。

委員：

ゲーム感覚が受け入れられたのではないか。また、お土産があるのも良かったようだ。できれば、中学生くらいまでを対象とする資料を揃えてほしい。物事の見方を育てる良い方法であり、博物館の存在意義が上がる。

委員：

美術館でもゲーム感覚のプログラムの導入に努めてほしい。

委員：

「房総のむら」は、教員が評価しており、子どもにも好評である。来館時にはそのような演目を用意してくれている。視点を示してあげると子どもは十分楽しめ、それは常設展示でも可能である。重要なのは「きっかけ」である。

千葉市立美術館が改修のため一時休館となり、県立美術館で総合展覧会が開催されるが、これはひと工夫すると入館者を増やすチャンスである。また、配布物など、教育委員会ルートの情報伝達は強力的に浸透する。

委員：

博物館の将来を考えると、地域（県）を越えて「博々連携」を行ってほしい。例えば、「クモ展」は関西でも好まれるはず、逆に関西での展示も千葉県で好まれるものがあるはずである。地域内、地域外の「博々連携」を図ってほしい。

中央博物館：

「生物多様性展」については、予想に反して他県の自然系博物館があまり反応しなかった。地域を越えて他県にもアピールできるような創意と工夫をした展覧会を開催する必要がある。

委員：

統廃合による県立美術館・博物館のスリム化については、政権交代もあって統廃合の落ち着き所が一向に見えない。

各館の集客努力や学校連携の事業展開はすばらしい。しかし、学芸員のモチベーションはあがっているか、総括しておく必要がある。

次の政権の施策に対する戦略を考えておく必要がある。スリム化の結果、トータルでプラスになっているのか。

委員：

博物館の知財は維持され発展しているか。それを担う博物館の足腰を鍛えていく必要がある。集客力だけではいけない。博物館の独自の研究意欲を高め、知財を蓄積することが必要。それには、他の博物館との連携が手っ取り早く大切なことである。きちっと連携して知財を共有するしくみを作る。そこを見失うのではと危惧しており、これは、組織・体制に問題がある。展示事業、それを支える基礎的情報収集・管理との共存・共栄を図る必要があり、長期的な展望が必要である。

文化財課長：

資料と知見の蓄積、情報発信、その両輪が博物館には必要である。これまでは、情報発信が少なかった。

10館体制が5館にスリム化したのが、新たな行財政改革もあり、行方が定かではないが、行革のためだけに博物館を統廃合することはできない。これまでも、県立館として残す、市町村に移譲するとしても博物館として残すというのは基本的な説明である。今年は、5館体制での活性化の基本的な方向性だけでも今年中にだしていきたいので、皆さまのお知恵を拝借したい。

議 長 :

知財の蓄積と本物の体験のためには博物館が必要である。